

最愛の家族が認知症になった時 あなたはどうしますか

介護のキーワードは「試行錯誤」と「危機管理」

平成 年 月 日
会場名

若年認知症ぐんま家族会副会長
群馬県議会議員
大沢幸一

1、「若年認知症」ってなんですか？

(1) 行政の変更

「痴呆症」⇒「認知症」平成16年12月24日

(2) 年齢 65歳未満(64歳以下)で発症したことを定義付け

- ①若年期(18歳～39歳)
- ②初老期(40歳～64歳)

(3) 若年認知症の原因となる疾患

- ①アルツハイマー型
- ②前頭側頭型
- ③レビー小体型
- ④血管性障害
- ⑤頭部外傷後
- ⑥アルコール関連疾患ほか

(4) 誰でも発症する可能性がある

全 国：37,800人(厚労省の推計：21年5月19日)
群馬県： 505人(平成18年3月)
611人(平成22年2月)

2、症状

(1) 知的症状(中核症状・根本的な治療がない)

- ①健忘—物忘れ
- ②見当識障害—日時、場所、人の識別障害
- ③思考障害—考える、理解する、計算する力に障害がおこる
- ④認知障害—判断力、視覚や音に対する認知力に障害がおこる

(2) 心的症状(主に薬物療法)

- ①夜間せん妄—夜間の興奮、言動に異変を生じる
- ②不眠 ③幻覚 ④妄想 ⑤抑うつ

(3) 行動障害

- ①徘徊 ②暴力 ③異食 ④弄便

3、症状の進行度合いによる対応（大沢の定義）

（1）軽度：戸惑いの期間

- ・「何かおかしい？」ことから出発する
- ・本人・家族とも 様々な認知障害に戸惑う
- ・何を・どこに・聞いていいかわからない

（2）中度：苦悶の期間

- ・病名確定、治癒がないという現実を受け入れられない
- ・本人は、日増しに不安感が増大していく
- ・家族は、ストレスと緊張の日々を余儀なくされる
- ・介護人（特に男性）がうつ病になってしまう
- ・在宅介護が困難となってくる
- ・介護保険制度利用
 - 行政の窓口対応（相談・申請）
 - ケアマネージャーとの対応
 - 各種訪問介護
 - 施設利用（デイサービス・ショートステイ・特養）
- ・障害年金の受給申請と社会労務士
- ・生命保険の重度障害申請
- ・住居のバリアフリー化

（3）重度：死を意識する期間

- ・要介護度5の段階：本人・家族とも「死」を意識する
- ・全面介護・介助
- ・時には、施設介護の限界を超える状況がでて来る
- ・専門病院への対応
- ・嚥下障害と延命装置（理論と現実のギャップ）
- ・身体硬直・言語障害
- ・介護人のケア
- ・介護人の死生観

4、正しい情報収集は必須課題

- （1）病名確定後の情報収集のあり方と症状の予見
- （2）関係文献の購入
- （3）インターネットによる活用
- （4）関係資料のファイリング

5、早期発見と早期治療について

- （1）平成15年9月 総合病院で受診
- （2）平成16年6月7日 「アルツハイマー病」と診断下る
 - ①問診
 - ②認知機能テスト
 - ③画像検査の3点セット
- （3）「治癒することがない」という決定的な現実

(4) セカンドオピニオンについて

6、人格の尊厳と「ダメ三原則」(人間ドック：平成17年6月16日)

- (1)「怒ってはダメ」
- (2)「駄目と言ってはダメ」
- (3)「押し付けてはダメ」

7、地域の中でどう生きていくか

- (1)平成17年初冬に公表。以来、「隠さず生きること」の提言
- (2)平成18年3月1日、県議会一般質問で「若年認知症対策」
- (3)マスメディアからの取材に応諾
- (4)地域介護の実験
 - ①向こう三軒両隣意識の醸成
 - ②好きなことを好きなだけさせる(趣味・道楽)
 - ③プライバシーの保持
 - ④重度化に伴う限界
 - ⑤プロへの依存

8、看護と介護の領域

- (1)双方とも「人間の尊厳」という崇高な理念と向き合うこと
- (2)「人格は失われず、隠されていく」ということ
- (3)「情緒はむしろ研ぎ澄まされていく」ということ
- (4)介護・看護共に「スローアンドスロー」に徹すること
- (5)認知症者の言動すべてを肯定すること(演ればやれる・俳優 宇野重吉さんの名言)
- (6)教科書あって教科書なし・一人ひとりの対応は異なる

9、若年認知症を取り巻く課題

- (1)社会的認識の欠如
- (2)医療、医師不足と医師の専門性。特にかかりつけ医の課題
- (3)就労機会の喪失、経済的破綻、家族崩壊、子どもの教育への影響
- (4)介護保険制度の報酬基準の見直し
- (5)介護福祉士の不足と処遇改善
- (6)若年認知症対応の施設整備
- (7)介護人の共倒れ(介護人のケアは最重要課題)
 - ①息抜きを忘れない、 ②「頑張らない介護」 ③サービスの利用

10、国、地方自治体との連携

- (1)平成18年6月28日、「若年認知症ぐんま家族会」設立
- (2)群馬県議会20年5月定例会で、全国初の「若年認知症対策に関する意見書提出」が全会一致で可決される

(3) 群馬県こころの健康センターの増改築

1 1、認知症予防対策

「認知症の予防はできない。ただし、発症を遅らせる可能性がある」という説について

- (1) 食事の摂取
- (2) 適度な運動
- (3) ストレスをためない

1 2、「妻が『若年認知症』になりました」を書いたわけ

- (1) 「私ごとであって私ごとでない」
- (2) 「問題解決の道筋は当事者が声を張り上げていかない限り道は拓けない」
- (3) 講談社から平成 20 年 12 月 2 日初版
- (4) 327 ページ
- (5) 1, 500 円 (税別)

「人間の真価は逆境を乗り越えて生きることにある」

以上。